

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立佐志小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症対策、学力向上、人権教育等、チームとして取り組み、ほぼ目標に合致した成果をあげることができた。学校が楽しいと感じる児童が増えている。</li> <li>支援を要する児童については、専門機関との連携で継続して対応していく。</li> <li>タブレット端末活用研修を行いながら、児童の学習意欲を高め、主体的で深い学びにつながる研修を継続して進めていく。</li> </ul>
2 学校教育目標	「自分も他者も大切に作るさしっ子の育成」～「気づき、考え、実行する」子ども～
3 本年度の重点目標	①子どもの健康安全とまなびを両立する ②子どもの心を豊かにする ③子どもに学力をつける ④家庭・地域との連携を図る ⑤職能成長を図り、働き方改革を進める

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目			最終評価		
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価	
				達成度 (評価)	実施結果
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師70%以上。	・定期的な校内研修を実施する。 ・全職員、研究授業・研究協議会を実施する。 ・OJTを有効に活用する。	A	・計画的な校内研修と研究授業により、授業や研究について共通理解、共通実践をすることができた。また、自発的なOJTが盛んに実施されており、協力して課題解決に当たった。マイプランを達成した職員は85%おり、その他の職員も達成したといっている。
	○学習習慣及び基礎基本の定着	○始業時間になったら席につき、静かに待つ児童80%以上。 ○期末テストの漢字、計算テストにおいて、クラス平均70%以上を目標とする。 ○「話し合い活動のよさを感じる」と回答した児童70%以上。	・「授業が終わったら次の学習の準備とトイレを済ませる習慣をつけさせる」「5分前行動を意識させる」ために、声掛けと指導の徹底を図る。 ・朝の国語スキルタイムでは、全学年共通の教材を使用し、言語事項の習得を図る。また、算数スキルタイムでは、ドリル等を活用した基本的事項の確認や、テスト・宿題の解説を行う。 ・授業では、交流活動の場を設定し、その中で様々な考えに触れさせたり、自分の考えを伝えさせたりする。	A	・学習の基礎・基本の定着に向けて、学習習慣定着についての児童への声掛けと、国語と算数のスキルタイムの確実な実施を行った。ほとんどの児童は始業前に席についていた。期末テストの漢字と計算の平均点は90点、話し合い活動のよさを感じる児童は96%もいた。児童へ繰り返し指導したことで、学習習慣と学力の基礎基本が定着してきたといえる。各学年取り組んでいる「さしっ子ノート」も効果があった。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○自分や友だちのよさに気づき、ちがいを認めることができる子どもを育てる。	・必須教材、人権の日集会、「ありがとうの花束」などを計画的に実践し、自他を大切にすることを育む。 ・道徳の授業などで、他者との関わりを前提として自分の言動をふりかえらせる。	A	・各学年とも必須教材に取り組むことができた。学年によっては、児童生徒支援教員を中心に級外が協力して実践できた。 ・低・中・高学年ごとに、学習したことを発表する形式での人権の日集会を行った。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「学校に行くことが楽しい」と回答する児童が85%以上。	・月1回の「心のアンケート」等で、児童の実態を把握する。 ・「生活指導協議会」「教育相談研修会」を月1回実施し、組織的対応を図る。 ・事案発生時には「いじめ防止対策委員会」を開き、組織的に早急に対応する。	A	・SOSシートを実施し、早急に対応した。児童が相談しやすくなるように、相談したい先生を書き欄も加えたことがよかった。「心のアンケート」では95%の児童が楽しい(2/15現在)と回答している。
	○集団における受容的、寛容的な態度の育成	○縦割り班活動後の振り返りで、活動に対して肯定的な回答をした児童が85%以上を目標とする。 ○Q-Uにおける満足群の割合を昨年度以上とする。	・6年生は、活動前後に各担任と打ち合わせをすることで、リーダーとしての自覚をもたせる。 ・自分も他者も認めるために「たてわり伝言板」を活用・放送し、校内に知らせる。 ・児童相互のトラブルに対し、級外職員が丁寧な関わりや対応を行う。	A	・6年生から5年生へ引継ぎを行うことで、来年度の見直しをもつことができた。 ・たてわり伝言板を活用し、放送をすることができた。放送をしたことで、自己有用感を高められると考えた。 ・Q-Uは2回目を実施を行った。ほとんどの学年が要支援や不満足群がなくなっている傾向にある。 ・児童相互のトラブルに対して、級外職員が丁寧な関わりを行うことで、大事にならずに解決している。
●健康・体づくり	○望ましい生活習慣の形成	○自他の健全健康を大切にすること。 ①善悪の判断をもとに行動できる子の育成 ②進んで挨拶や返事ができる子の育成 ③朝食の喫食率の向上、歯みがきの習慣化 ④互いに健康や安全に気をつける子の育成	・適切、組織的な健康安全指導 ・学級活動、道徳教育の充実 ・あいさつ運動や検温時の挨拶 ・生活満点一週間の取り組み ・交通安全指導や各種避難訓練等の計画的な実施と改善点の見直し	B	・善悪の判断に課題のある児童へ繰り返し指導をしたり、放送で呼びかけたりすることができた。挨拶や返事といった基本的なところの指導に課題が残った。 ・朝のマスク着用は、ほぼ100%で、児童の感染予防への意識も習慣化している。 ・歯の治療率も上がり、今現在未処置者は17.1%で全国平均の18.4%より、よい結果となっている。
	○児童1人1人の体力の向上	○運動の習慣づけと体力の向上	・「スポーツチャレンジ」への推進 ・なわとびタイム、マラソントイムの実施 ・運動場での遊びの推進	A	・天気のよい日は、ボール運動をしたり、遊具を使って遊んだりして、元気に遊ぶ児童が増えてきた。また、外に出ない児童に関しても、マラソントイム、スポーツチャレンジなどの取り組みにより、運動に親しもうとする意欲が高まってきた。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日を設定(金曜日)する。 ・教材の共有、役割分担をし、過重な負担を回避する。 ・校務用パソコンのデータの整理を行い、必要なデータは誰もがすぐに探して活用できるようにする。 ・行事後の反省をもとに改善すべきことをみつけ、行事のスリム化を目指す。 ・職員会議終了時刻を設定し、時間内で終わるように、提案方法を簡略化する。(ペーパーのみ、検討事項のみ協議等)また、各部会で協議し、必要なことを全体で協議する。	A	・4月から2月までの時間外の平均が45時間を超える職員が全体の20%はいるものの、3学期に入ってから、ほとんどの職員が時間を意識して実務をこなし、退勤時間が全体的に早くなってきた。また会議の時間を設定して効率よく進めるなどして、職員全体でタイムマネジメントを意識して行ってきた。今後も引き続き、職員全体で声を掛け合うなどして、働き方改革を進めたい。 ・行事後の反省をもとに改善すべき点を見つけ、行事のスリム化に生かすことができた。
	○新しい教育に対応するための研修やOJTの推進	○週1回の学年会の確実な実施。 ○年間を通じ校内研究授業 全職員実施。(中堅、ベテラン教員の模範的授業参観)	専門部会、学年部会における若手教員への具体的指導、相談体制を確立する。 ・校内研究会を活用した若手教育への働きかけを全職員が意識する。また、時間割を調整し、初任者や若手教員に対して授業参観の機会を作る。 ・短時間でもお互いに授業を見合う時間を設定し、持続可能な授業研を行う。	A	・学年部会や専門部会、校内研修会を活用して、授業作りや学級経営など、話し合うことができた。話す機会を設定することで、お互いに学びあう気風が高まっている。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価	
				達成度 (評価)	実施結果
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○インクルーシブ教育の構築のため、特別支援教育に関する意識が向上した教員80%	・通常学級における特別支援教育の考え方に基づいた児童の理解と支援についての見識を深める。 ・年度当初に個別の支援計画・指導計画を活用して共通理解を図り、個に応じた対応を図る。	B	・校内支援委員会、研修会、支援員による学習・生活支援などを通して通常学級においても個人の特性に応じた配慮や支援の在り方について理解を深めることができた。
○地域との連携	○地域人材マップの作成と人材を活用した授業の推進	○人材を活用した授業を、各学年、年間2以上実施する。	・昨年度の実績をもとに、担任や地域人材をつなぎ、担任が授業実践をする。また、必要に応じて新しい人材を活用した授業を作る。	A	・体験講座に申し込んだり、地域人材に依頼をしたりして、各学年、平均10回体験学習を行った。児童は教室では学ぶことができないことを体験し、様々なことを得ることができた。来年度に向けて人材等の資料をまとめている。
○新型コロナウイルス感染症対策	○基本的な感染症対策の徹底	①マスクの着用率90%以上 ②毎朝の検温と体調チェック ③こまめな手洗いと手指消毒の励行 ④教室の常時換気	・マスクの適切な着用を呼びかけ、紛失や破損時に備え予備のマスクを持参させる。 ・家庭との協力を仰ぎながら、毎朝の健康観察を充実させ体調不良者の早期発見・早期対応をする。 ・正しい手洗いを定着させ、感染症予防に努める。 ・常時、窓を開け換気を徹底する。	A	・マスクの着用、室内の換気、手指の消毒など基本的な感染症対策を徹底できた。全学的に夏に流行した以外、学校生活での感染の広がりはなかったため、引き続き意識して行っていく。

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力向上推進校として、校内研究に職員全員で取り組み、国語科の学力向上を図ることができた。読み取る力、書く力など一定の成果を上げることができた。</li> <li>児童の学びを止めないために感染症対策には十分に注意を払い、体験活動や外部講師の依頼などできる範囲で行うことができた。児童の健康と学びを両立する取り組みを継続して行う。</li> <li>校内支援委員会や、のびっこ研(教育相談)など児童の支援にチームで取り組んだ。また人権教育を中心に据えいじめや差別のない学校にするための努力を続けた。気になる児童には専門機関と連携を図りながら支援をしていく。</li> <li>校内研究を国語科から算数科にし、個別最適な学習のためのタブレット端末活用研修などを行い、授業改善につなげる。</li> <li>引き続き、人権・同和教育の研修を推進し、「自分も他者も大切に作る児童の育成」を目指す。</li> </ul>
----------------	--